

各 位

公益社団法人農業農村工学会
技術者継続教育機構

平成 27 年度「CPD 取得一覧表」【確定版】の送付について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成 27 年度研鑽記録の「CPD 取得一覧表」につきましては、本年 8 月上旬に一度ご送付を申し上げておりますが、その後 8 月末日まで平成 27 年度研鑽記録申請の受付を行ってございましたので、今回、最終受付分までを含めた「平成 27 年度 CPD 取得一覧表【確定版】」をご送付申し上げます。 敬具

＜「CPD 取得一覧表」の記載内容でよくあるご質問と回答＞

質問 1	「CPD 取得一覧表」の右肩に記載されている「取得 CPD」の算出方法は？
回答	「CPD 取得一覧表」に記載されている記録はすべて当機構の認定基準をクリアし CPD 記録として認定された記録です。その右端の数値の合計値から「補正(上限値)」を除いた数値が「取得 CPD」であり、取得を証明する「CPD 取得証明書」には「取得 CPD」が記載されます。
質問 2	「補正(上限値)」とは何ですか？
回答	当機構の認定基準では、「教育形態区分(a～z)」のうち、いくつかの教育形態に上限値を定めています。「補正(上限値)」とは、その上限値を超過している数値の合計値です。
質問 3	農業農村工学会員の「水土の知」の自動登録分【x】は 20cpd では無いのですか？
回答	農業農村工学会員である CPD 登録者の「水土の知」購読の自動登録分【x】は“10cpd”で、10cpd を超えた部分は「補正(上限値)」となっています。(【x】として 20cpd まで取得するためには「水土の知」購読以外の自己学習記録の“自己申請”が必要です)
質問 4	建設系 CPD 協議会加盟団体の認定プログラムへの受講記録が【ad】になっていない？
回答	当機構の認定基準では「建設系 CPD 協議会のホームページに掲載された CPD プログラム」であり、かつ受講を証明する「受講証明書」の提出があった自己申請記録についてのみ、【ad】として当機構の認定プログラムへの参加と同等に「実時間数×1cpd」を付与しています。

個人が申請された研鑽記録のうち 「認定不可」または「査定」された研鑽記録

CPD 個人登録者様からご申請いただきました CPD 研鑽記録は、技術者継続教育機構が定める「認定基準」に照らして認定可否の判断をいたしました。

なお、以下のような研鑽記録は「認定不可」あるいは「査定」をいたしましたので、ご了承の上、CPD 申請くださいますようお願い申し上げます。

○「認定不可」になった場合の判定根拠

- ① 申請内容から「日常業務」や「業務の一環」であると判断した場合
- ② 「～会議」や「～業務検討会」等、活動名称から業務遂行上の活動と判断した場合
- ③ ボランティア活動など、直接技術力向上に結びつかない活動であると判断した場合
- ④ 具体性に欠けた内容で申請され、技術力が明確に向上したと判断できない場合
- ⑤ 申請期間を過ぎた過去の記録を申請された場合
- ⑥ 論文発表の場合、「証拠書類」から技術的論文であるとは言えないと判断された場合
- ⑦ 研鑽した事実、あるいは合格を証明するための「証拠書類」に不備があった場合
- ⑧ 資格の「合格」ではなく、資格の「登録」や「更新」であると判断した場合

○「査定」になった場合の判定根拠

- ① 1日の学習時間が7時間を超える場合 ⇒ **7時間以内に査定**
- ② 研修会プログラムの中に「挨拶」「休憩」「移動」「試験」「アンケート記入」等が含まれていると判断した場合 ⇒ **研修した時間のみを勘案し査定**
- ③ 展示会場などの展示ブースでの説明を「講師」として申請した場合
⇒ **同一説明の繰り返しと判断し0.5時間に査定**
- ④ 「講師」として、業務ごとや日時、場所を変えて類似した内容を繰り返し行っていると判断した場合 ⇒ **同一内容の繰り返しと判断し最初の1回のみを認定**
- ⑤ 論文発表をされた記録で、共著者が複数人の場合
⇒ **全体の取得 cpd 値を著者人数で按分した cpd 値に査定**
- ⑥ 「講義資料を作成した」と「作成した資料で講義をした」など、一連の研鑽記録であると判断した場合 ⇒ **どちらか一方を認定し、一方を認定不可**

○研鑽記録ご申請の際には「こんなところに気を付けて」

1) 複数の研鑽記録はまとめて、1記録ずつ申請して下さい。

当機構では研鑽記録毎に審査をしていますので、お手数ですが、1記録ごとに申請をお願いいたします。

<間違った申請例>

記録番号	開始年月日 終了年月日	教育形態	行事や活動の名称
1	2014-04-01 2015-03-31	ad	A研修会受講(4月)、B講習会に参加(8月)、Cセミナーに出席(10月)



<正しい申請例>

記録番号	開始年月日 終了年月日	教育形態	行事や活動の名称
1	2014-04-15 2014-04-15	ad	A研修会を受講した。
2	2014-08-01 2014-08-01	d	B講習会に参加した。
3	2014-10-21 2014-10-21	ad	Cセミナーに出席した。



2) 業務の一環と読み取れる研鑽記録は認定できません。

<間違った申請例>

記録番号	開始年月日 終了年月日	教育形態	行事や活動の名称	成果内容
1	2014-10-10 2014-10-10	e	工事着手会議	工事着手にあたり発注者と検討をした



3) 研鑽内容に「講師」の記述が無いと、講師としての認定はできません。

<間違った申請例>

記録番号	開始年月日 終了年月日	教育形態	行事や活動の名称	成果内容
1	2014-09-12 2014-09-12	q	職場内研修	CAD製図基準について



<正しい申請例>

記録番号	開始年月日 終了年月日	教育形態	行事や活動の名称	成果内容
1	2014-09-12 2014-09-12	q	職場内研修の講師	CAD製図基準について職場内研修を実施し講義を行った。



4) 研鑽した内容が具体的では無いものは認定できません。

<間違った申請例>

記録番号	開始年月日 終了年月日	教育形態	行事や活動の名称	成果内容
1	2014-04-01 2015-03-31	x	自己研鑽	自己学習をした



○Web 申請時の「行事や活動の名称」欄の記述例と「証拠書類」

以下に教育形態区分別での「行事や活動の名称」欄の記述例、および研鑽記録の証明に必要な**証拠書類**を列記しますので、ご参考の上、Web申請くださいますようお願いいたします。

なお、詳細は技術者継続教育機構のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) に掲載しています
 制度ガイドブック：個人登録用 および **CPD Q&A** をご確認ください。

教育形態区分	教育形態区分の説明	「行事や活動の名称」記述例	必要な 証拠書類
d	認定のない研修会・講習会・研究会・シンポジウム等への参加	外部団体が主催した〇〇研修会に参加した。	なし
ad	建設系CPD協議会の検索システム掲載のプログラムへの参加	建設系 CPD 協議会の検索画面に掲載の研修会を受講した。 証拠書類	主催者が受講を証明する「受講証明書」
e	プログラムに基づいた職場内研修	職場で主催した〇〇研修会に参加した。	なし
f	研修プログラムに基づいた社内研修 (OJT)	職場で主催した〇〇研修会に参加し、〇〇の実習・実技を受けた。	なし (実習実技が伴わない場合は【e】となります)
g	国際学会での口頭発表	〇〇発表会で〇分間の口頭発表を行った。(ただし発表時間が20分以内の場合のみ該当) 証拠書類	講演日と講演時間、および講演タイトルが確認できる「講演要旨集の目次等のコピー」
h	国内の学会での口頭発表		
i	国内の学術的な活動をしている団体・協会等での口頭発表		
j	その他での口頭発表		
k	国際学会での論文発表	〇〇誌で論文名「〇〇」(〇ページ)を発表した。 証拠書類	論文掲載誌の発刊日が確認できる「学術雑誌の目次等のコピー」と「掲載された論文のコピー」
l	学術雑誌(査読付き)への論文発表		
m	その他論文発表		
n	技術図書の執筆	書籍：〇〇において第〇章(〇ページ)を執筆した。 証拠書類	発刊日が確認できる「技術図書の目次等のコピー」と「執筆部分のコピー」
p	認定のない研修等の講師	外部団体が主催した〇〇研修会で講師をした。(ただし30分以上が該当)	なし(ただし「講師をした」との記載が必要)
q	職場内研修の講師	職場で主催した〇〇研修会で講師をした。(ただし30分以上が該当)	なし(ただし「講師をした」との記載が必要)
r	成果を上げた業務等(優良工事の表彰)	〇〇業務が〇〇から優良工事として表彰を受けた。 証拠書類	表彰年月日が記載された「表彰状のコピー」と「配置技術者を証明するコピー」
s	特許取得	〇〇の特許を取得した。 証拠書類	「特許証のコピー」
t	技術検討委員会等の出席	〇〇委員会に〇〇の立場で出席をした。 証拠書類	出席の立場が確認できる「議事次第等のコピー」
u	技術検討委員会等への出席(議長や委員長の場合)		
v	論文・技術図書等の査読	外部からの査読依頼に基づき、〇〇を査読した。 証拠書類	外部団体から個人に宛てた「査読依頼のコピー」
w	大学、研究機関(企業を含む)における研究開発・技術業務への参加、国際機関への協力等	〇〇に協力して〇〇の研究開発に参画した。 証拠書類	共同研究の機関名、研究テーマ、本人の関わりが確認できる「関係資料コピー」
x	自己学習	〇〇を読んで〇〇を学習した。 〇〇資格取得のため学習をした。	なし(ただし研鑽内容が不明瞭な場合は非認定)
y	資格取得(博士号含む)	〇〇に合格し資格を取得した。 証拠書類	合格年月日が記載された「合格証のコピー」
z	賞の受賞	〇〇より、研究テーマ〇〇が〇〇賞を受賞した。 証拠書類	表彰年月日が記載された「表彰状のコピー」